

2020年度 自己推薦(前期)入学試験

国際関係学科 国際文化学科	グループディスカッションとレポート
------------------	-------------------

受験番号						氏名	
------	--	--	--	--	--	----	--

受験学科に丸を付してください

地球温暖化についての次の新聞記事を読んで、下の問いに答えなさい。

このまま温暖化が進んだら？ 2100年ごろの日本——

これまでに経験したことのないような大雨、農産物の品質低下——。地球温暖化は、私たちの身近なところにも影響を及ぼし始めている。日本の気候はこれからどう変わるのか。最新の影響予測などを基に、日本の未来の姿を想像しながら、対応策を考えてみよう。

「夏の東京40度 熱中症対策 必須」

東京都(千代田区)では、最高気温が30度以上の「真夏日」が1年に計90日以上。夏の涼しさが観光客らに人気だった北海道でも真夏日が増え、今世紀末の日本は、春や秋であっても「夏みたい」と感じる日が多い、亜熱帯の世界になっているかもしれない。

温室効果ガス排出削減の効果的な対策を取らない最悪のシナリオに基づく気象庁の予測によると、今世紀末の年平均気温は、20世紀末と比べて全国平均で4・5度上昇する。東京都は、8月の最高気温(平均)が34度を超えると予想され、数年に一度は最高気温が40度を超える可能性がある。また、最高気温が35度以上の「猛暑日」は25日以上にも。熱帯夜は現在より45日程度増える見通しだ。寝苦しく、疲れが残ったまま、じっとりと汗をかいて目覚める朝が増えそうだ。

気温の上昇は、緯度の高い地域ほど大きい。札幌市では真夏日が現在の年8日程度から35日以上に増加。10年に一日程度しかなかったような猛暑日も年5日程度に増えると予測される。若月泰孝・茨城大学准教授(気象学)によると、札幌市は現在の水戸市の気温に、東京都は緯度で10度近くも南に位置する中国南部・桂林市の気温に近くなる可能性があるという。

熱中症のリスクも高まる。環境省研究班の予測によると、熱中症などによる死亡者数は、対応策を何も取らなければ全国的に2倍以上になる。熱中症対策として、人が通る場所には、日差しを遮る街路樹を計画的に植えるといった、街全体での対策がますます重要になる。また、単身世帯の増加を踏まえ、エアコンのある施設や大きな部屋に集まって過ごす「クールシェア」などの工夫を普及させることも必要だ。

(『毎日新聞』 2018年4月26日より。記事の内容は一部変更があります。)

問1 新聞記事を参考にしながら、以下の点について自分の考えをまとめ、ディスカッションしなさい。

- ①地球温暖化によって現在どのような影響が出ていますか。
- ②対策を取らない場合、どのような問題が予測されますか。
- ③今後、どのような取り組みが考えられますか(個人レベルや、地域や国レベル、世界レベルなど)。

問2 ディスカッションの内容をレポートにまとめ、さらに自分の考えを書きなさい。

